

# 2025年3月期 中間期 決算補足説明資料

2024年11月8日

フィード・ワン株式会社

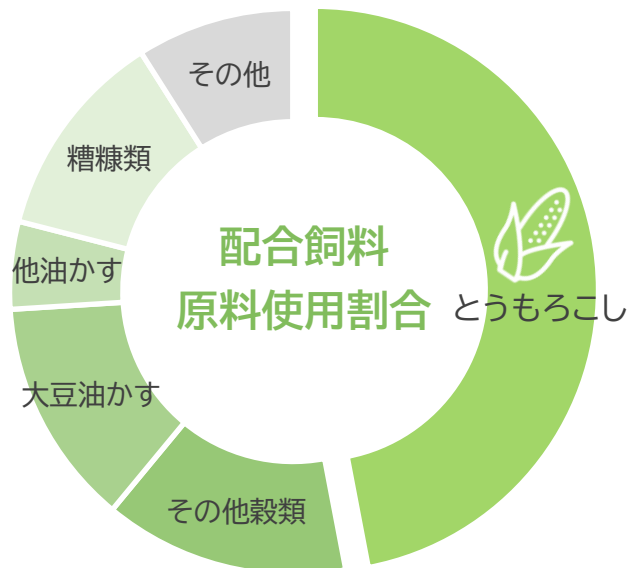
東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける

配合飼料は輸入原料の価格変動のインパクトが大きく、売上高や売上原価、販管費に大きく影響を及ぼす

## 輸入原料が8割以上<sup>(※)</sup>を占める

配合飼料はとうもろこしや大豆油かすといった輸入原料が大半を占め、中でもとうもろこしの割合は大きく、主産地であるアメリカやブラジルの相場はもちろん、為替や海上運賃の影響を大きく受ける



## 【売上高】 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し P08

- 四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われる
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標にならない

## 【売上原価】 売上原価の9割を原料費が占める

- 売上原価に占める原料費の割合は9割を超える
- そのうち8割以上が輸入原料となるためその価格変動は売上原価に直結する

## 【販管費】 配合飼料価格安定制度積立金を計上 P05

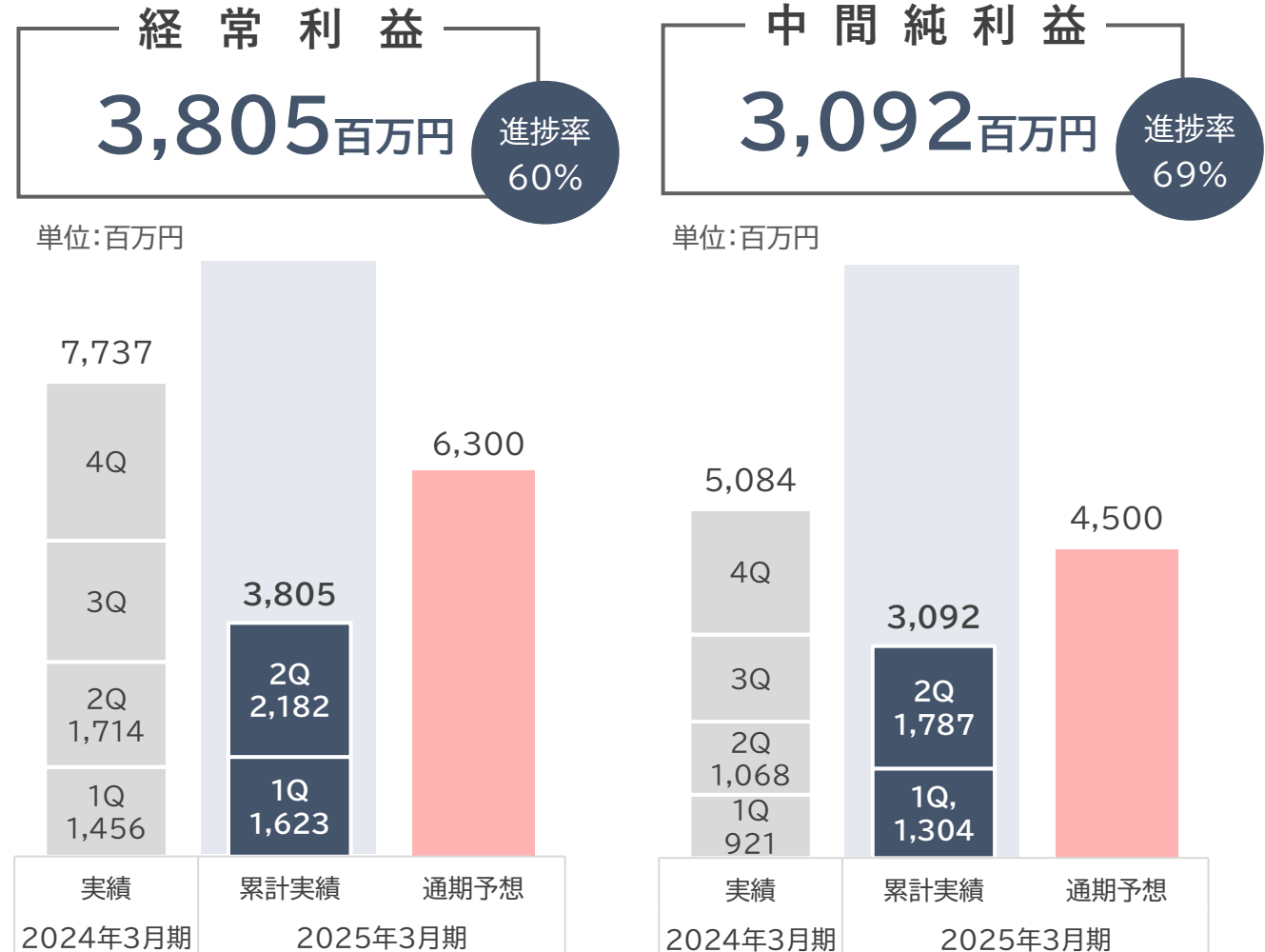
- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度
- 国、配合飼料メーカー、生産者が補填基金を積み立てており、発動条件を満たした際に生産者に補填金が支払われる。
- 積立金は販管費に計上している。当中間期は製造数量に対し**1,825円/ト**を積立

# 当中間期 連結決算概要

畜産飼料の価格改定(販売価格低下)により減収。畜産飼料の販売数量増加や売上原価改善により増益

単位:百万円

	2024.3期	2025.3期		通期業績 予想進捗率
	2Q	2Q	前年同期比	
売上高	156,645	148,298	▲5.3%	48.3%
売上原価	142,821	132,154	▲7.5%	-
売上総利益	13,824	16,143	+16.8%	50.8%
販管費	10,980	12,787	+16.5%	-
営業利益	2,844	3,355	+18.0%	55.0%
経常利益	3,171	3,805	+20.0%	60.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,989	3,092	+55.4%	68.7%

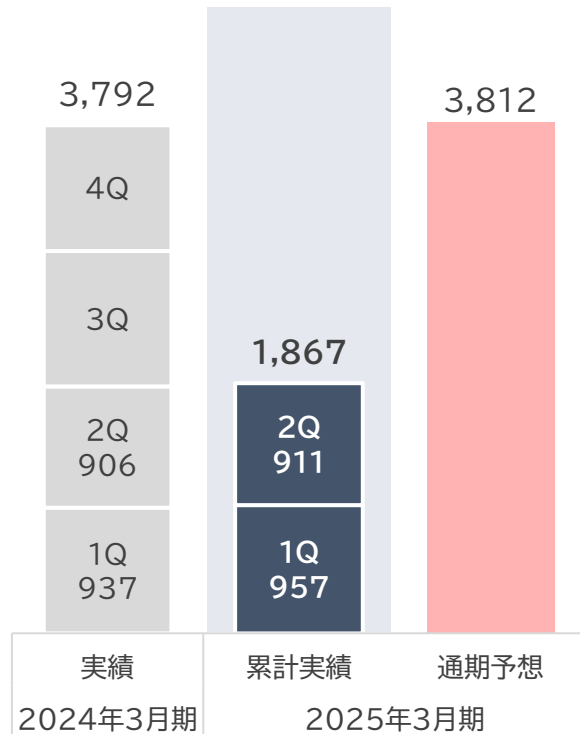


# KPI進捗状況

持続的な成長をしていくため、資本コストも意識し、販売数量、総投資額、EBITDA、ROIC、ROEをKPIに設定

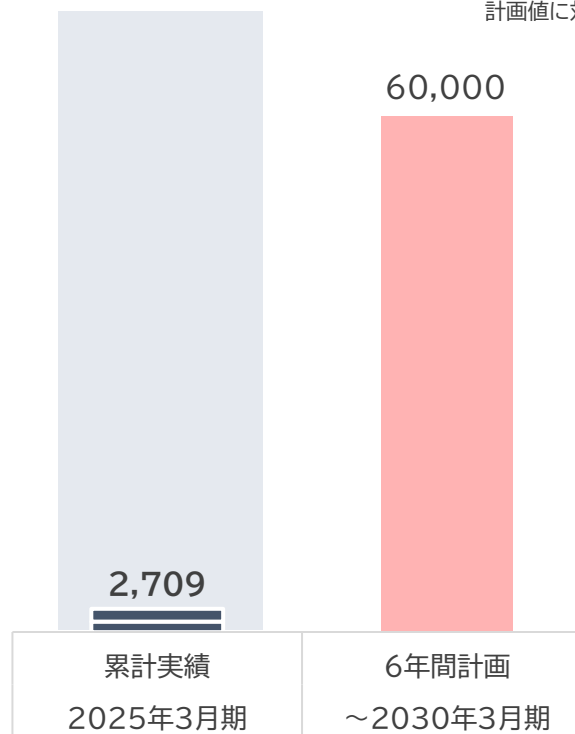


単位:千トン

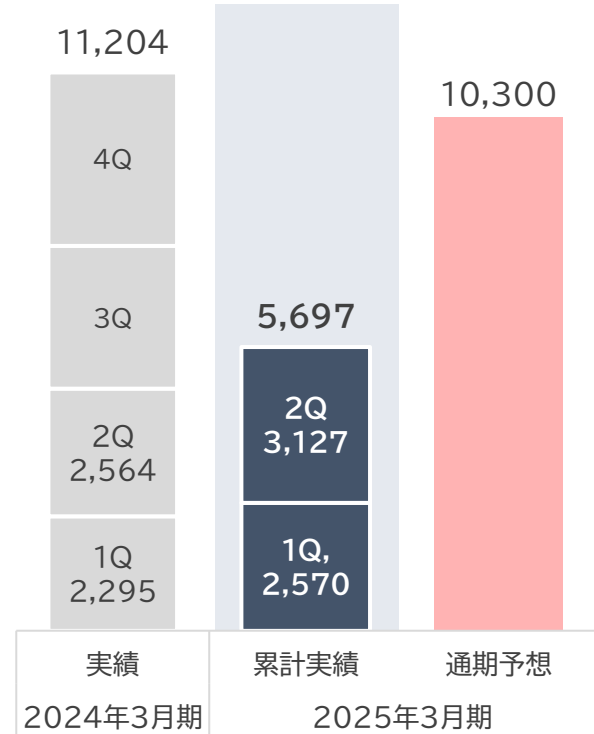


単位:百万円

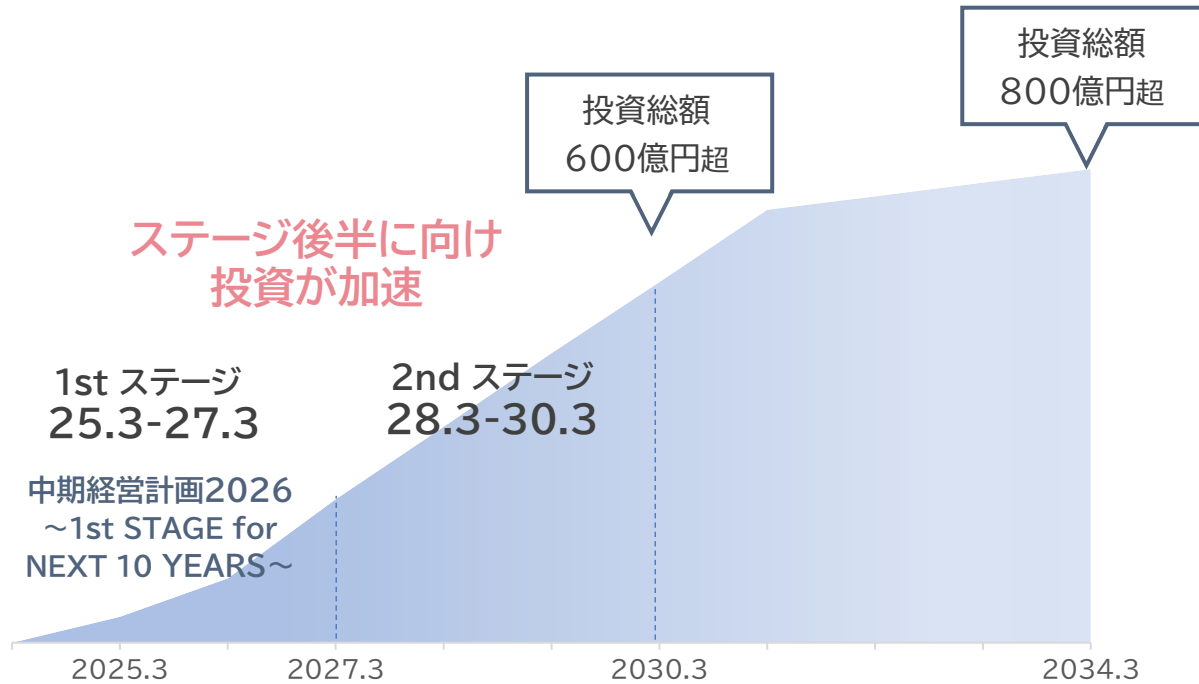
※2030.3期までの  
計画値に対する進捗



単位:百万円



1stステージは投資に向けた準備段階、2ndステージにかけて集中する



## 2025年3月期 当中間期の主な投資内容

### ▶ 北九州畜産工場

-ペレット(\*)ラインの増設

※ペレット:粉砕した原料に蒸気を加え加圧成形したもの



### ▶ マジックパール株式会社

-増産のため新工場を建設。建て替え後は生産能力150%

### ▶ 有限会社グリーンファームソーゴ

-洗卵選別機の更新やGPセンター(\*)の増改築

※GPセンター:グレーディング・アンド・パッキングセンターの略で、鶏卵の格付け(選別)包装施設のこと

## 投資方針

- ・飼料製造設備
- ・食品加工設備
- ・R&D設備刷新・増強

- ・人財(人的投資)
- ・畜水産DX
- ・R&D
- ・海外

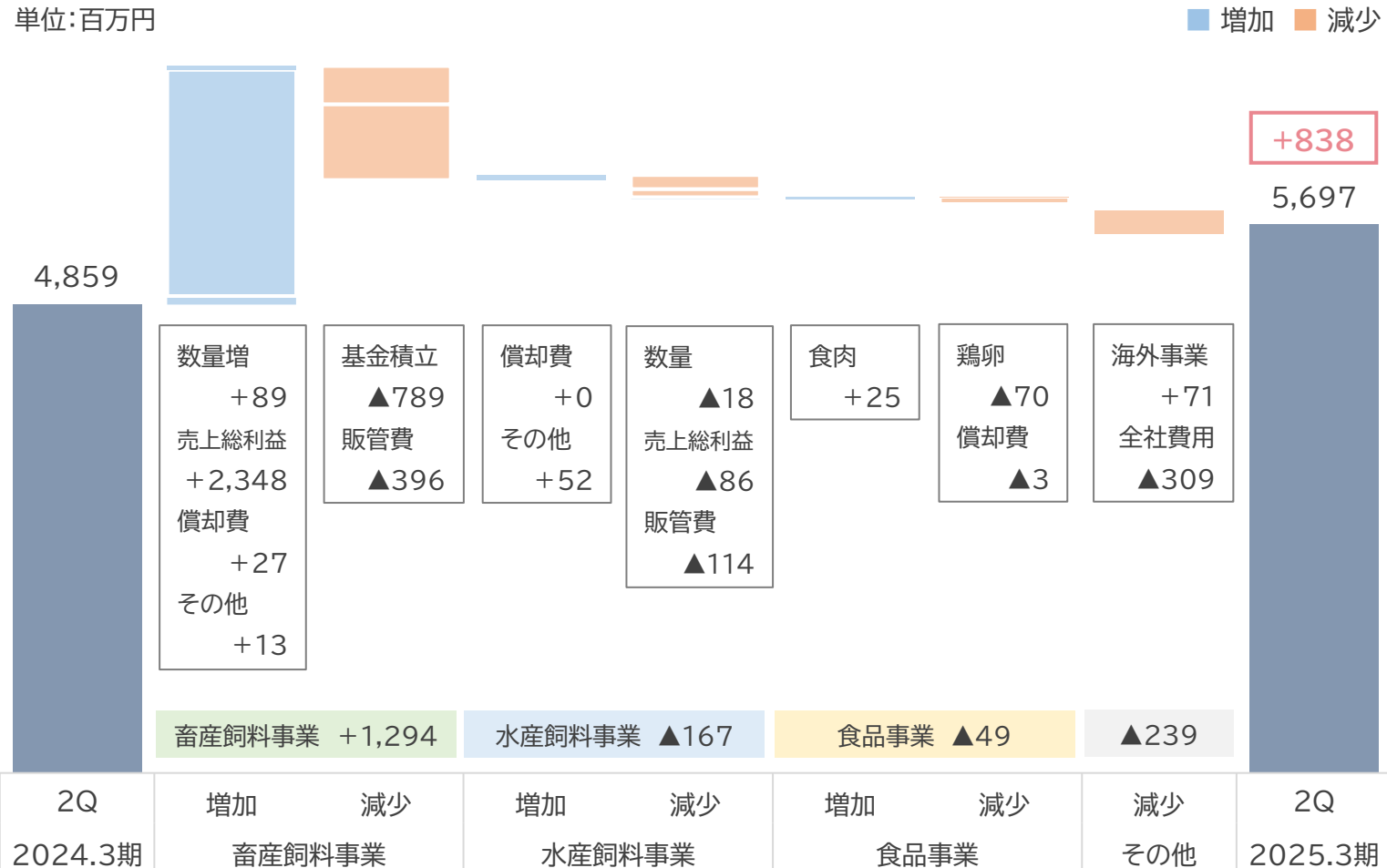
1st・2ndステージの  
6年間で  
**600億円**程度

## BSマネジメント方針

- ・必要な資金の大部分は営業キャッシュフローでまかない、有利子負債はDER等財務規律を保ちながら調達する
- ・CCCの改善や保有資産の最適化により、資産効率を向上させる

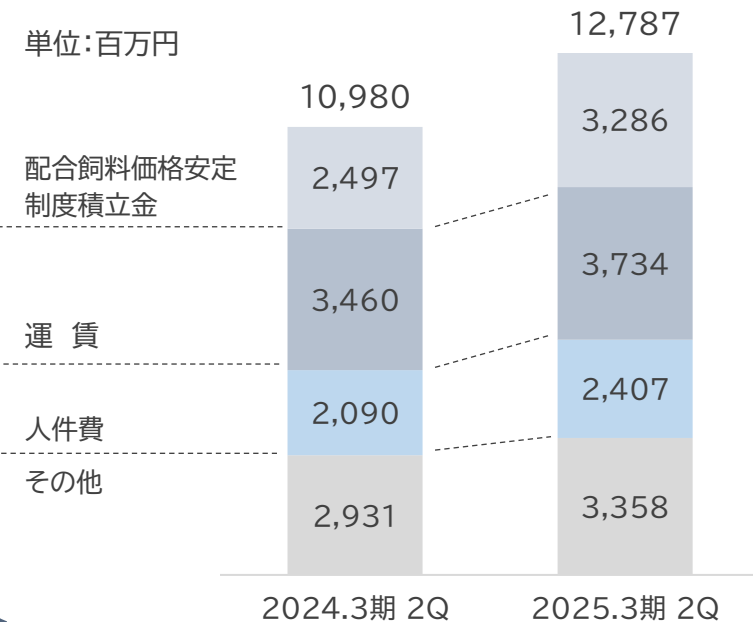
# EBITDA増減要因

販管費増加も、畜産飼料事業の売上総利益増加により前年同期比+17.2%増加



## 販管費

- 配合飼料価格安定制度の積立単価が増加(+400円/ト)
- 運賃は販売数量増加や単価上昇により増加
- 人件費は給与水準の引き上げにより増加
- その他は新基幹システム導入による減価償却費増加等



# 当中間期 連結財務状況

営業CFは主に借入金の返済に充当

## 連結貸借対照表

単位:百万円

( )内の数値は2024年3月期末との差

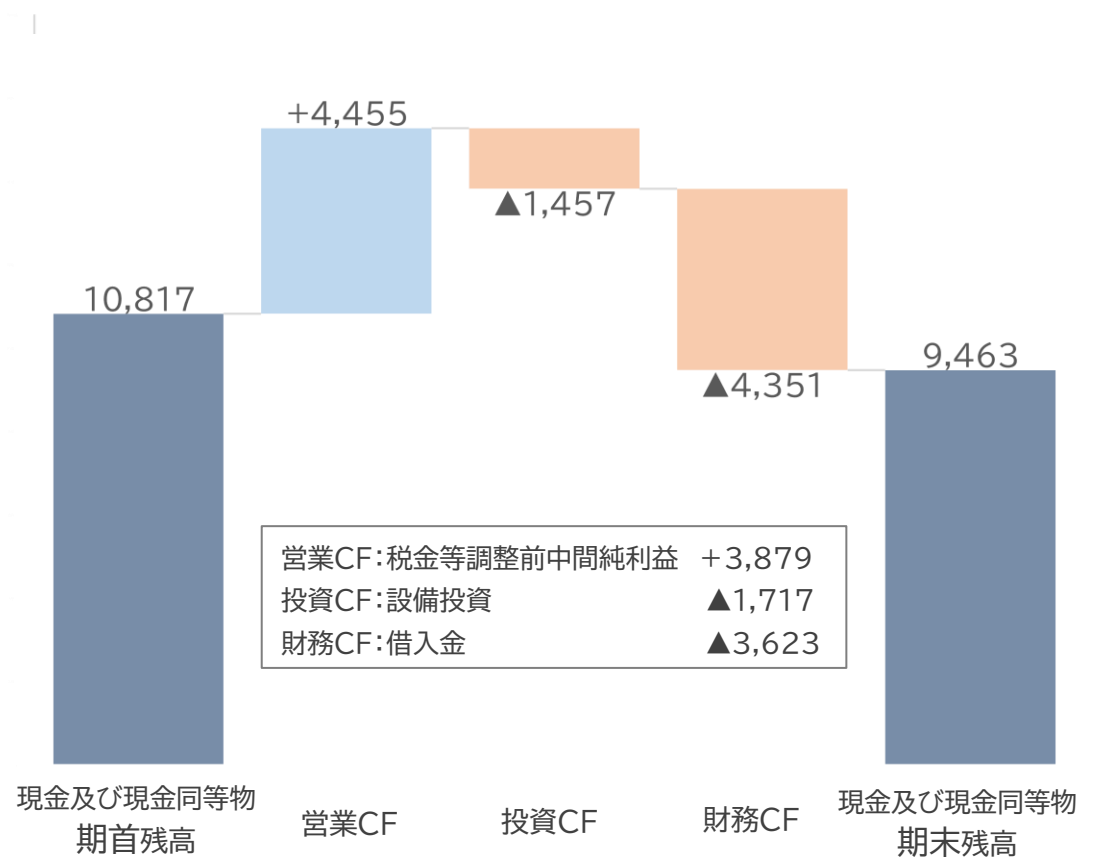
<b>流動資産 80,719(▲7,484)</b>		<b>流動負債 52,162(▲2,959)</b>	
現金及び預金	9,534 (▲1,342)	支払手形及び買掛金	29,963(▲4,397)
受取手形及び売掛金	45,294 (▲6,534)	短期借入金	12,798 (+2,218)
棚卸資産	18,994 (+1,688)	未払法人税等	1,118 (▲1,144)
<b>固定資産 43,589(+755)</b>		<b>固定負債 18,887(▲6,173)</b>	
有形固定資産	30,934(+752)	長期借入金	15,345(▲5,833)
投資その他の資産	10,971(▲138)	<b>純資産 53,260(+2,403)</b>	

**総資産 124,309(▲6,729) 自己資本比率42.3%(+3.9ppt)**

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

■ 増加 ■ 減少



# セグメント別業績

水産飼料事業、食品事業でセグメント利益は前年同期を下回るも、畜産飼料では前年同期比+34.5%と大きく伸長

単位:百万円

セグメント	2024.3期 2Q	2025.3期 2Q			
			増減額	前年同期比	
畜産飼料	売上高	122,698	116,275	▲6,422	▲5.2%
	セグメント利益	3,675	4,941	+1,266	+34.5%
	EBITDA	4,903	6,198	+1,294	+26.4%
水産飼料	売上高	12,924	13,533	+608	+4.7%
	セグメント利益	612	444	▲167	▲27.3%
	EBITDA	862	694	▲167	▲19.4%
食品	売上高	21,017	18,482	▲2,535	▲12.1%
	セグメント利益	65	19	▲45	▲69.9%
	EBITDA	149	100	▲49	▲32.7%
その他/調整額	売上高	4	6	+2	+42.8%
	セグメント利益	▲1,181	▲1,600	▲419	-

※今年度よりセグメントを変更 旧)飼料・食品・その他 → 新)畜産飼料・水産飼料・食品・その他

※セグメント利益:経常利益ベース

※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

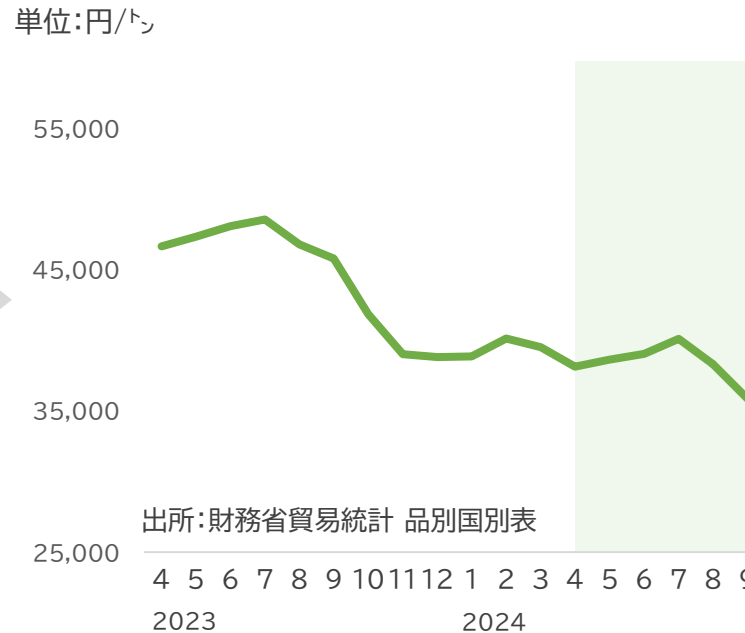


シカゴ相場は軟調に推移も為替は円高が進行。第2四半期は値上げとなったが、販売価格は前年同期比で低下

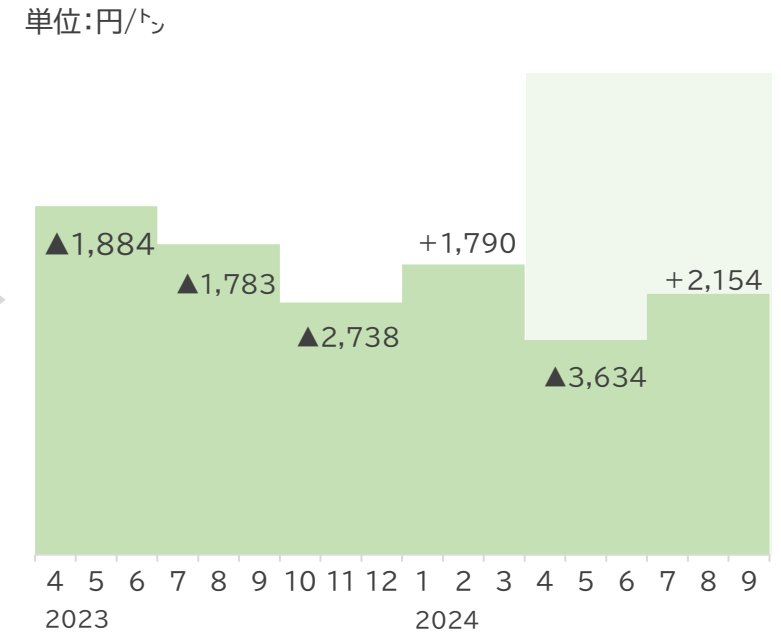
## 為替とシカゴ相場



## とうもろこし輸入価格



## 畜産飼料販売価格



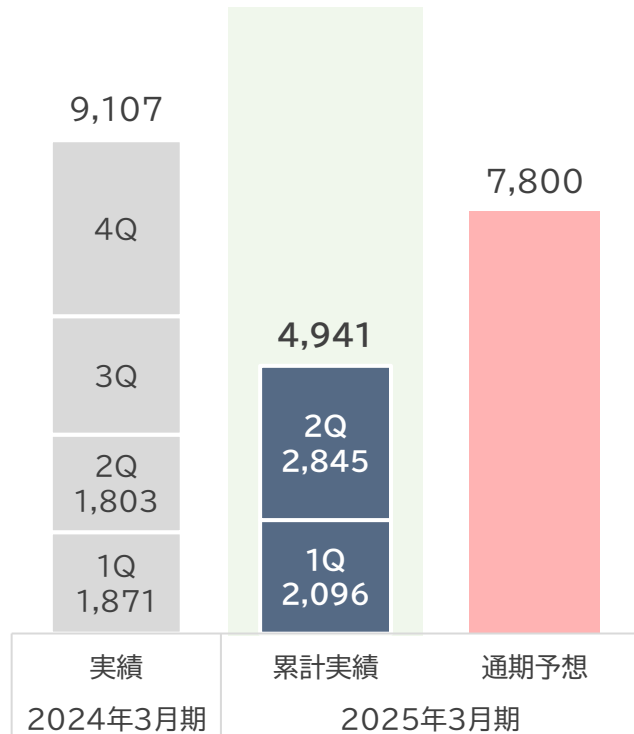
- 為替は米国の利下げ観測と日銀の利上げ観測を受け円高が進行
- シカゴ相場は生産見通しが市場予測を上回り軟調に推移
- とうもろこしの輸入価格は前年同期を大きく下回り推移 (前年同期比▲17.7%)

- 畜産飼料販売価格は前年同期比▲6.6%

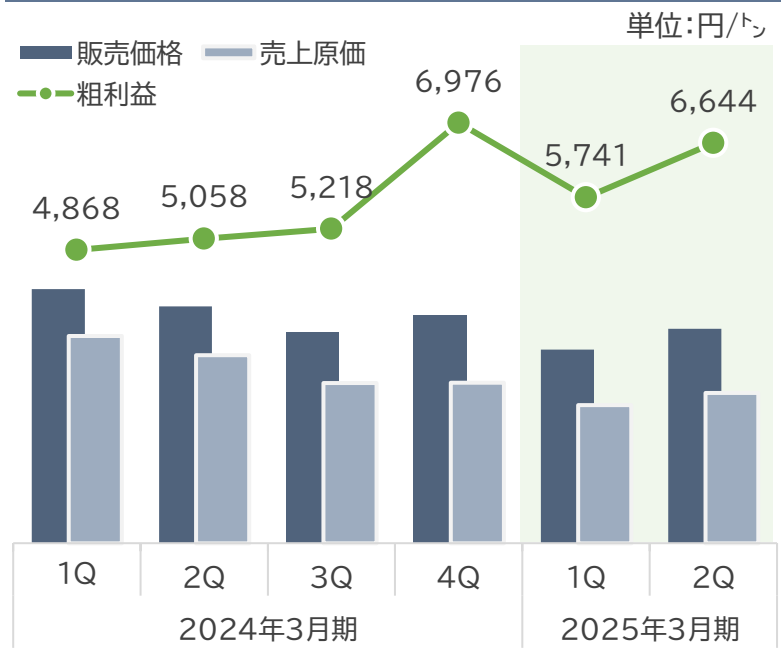
粗利益単価改善と販売数量増加によりセグメント利益は前年同期比+34.5%

セグメント利益  
**4,941**百万円  
進捗率  
63%

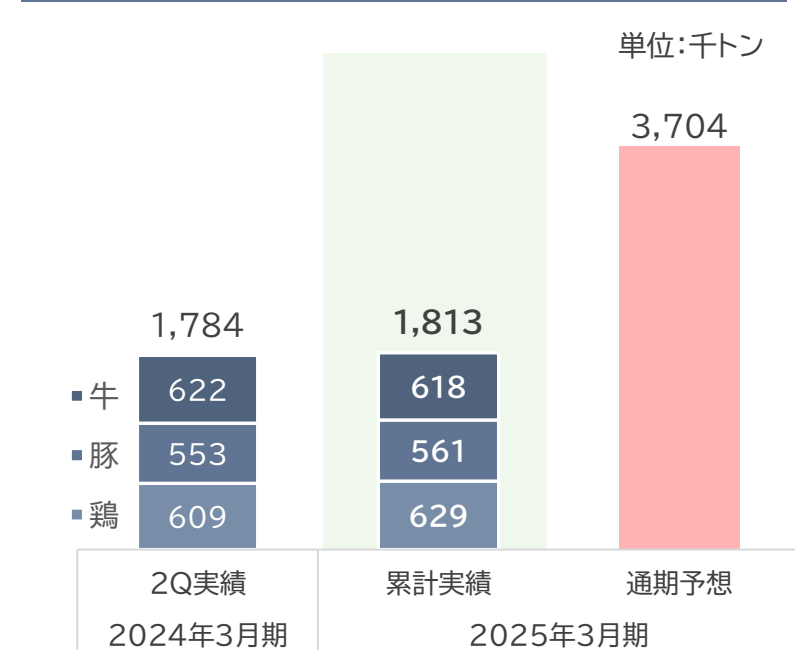
単位:百万円



## トン当たり販売価格と売上原価の推移



## 畜種別販売数量



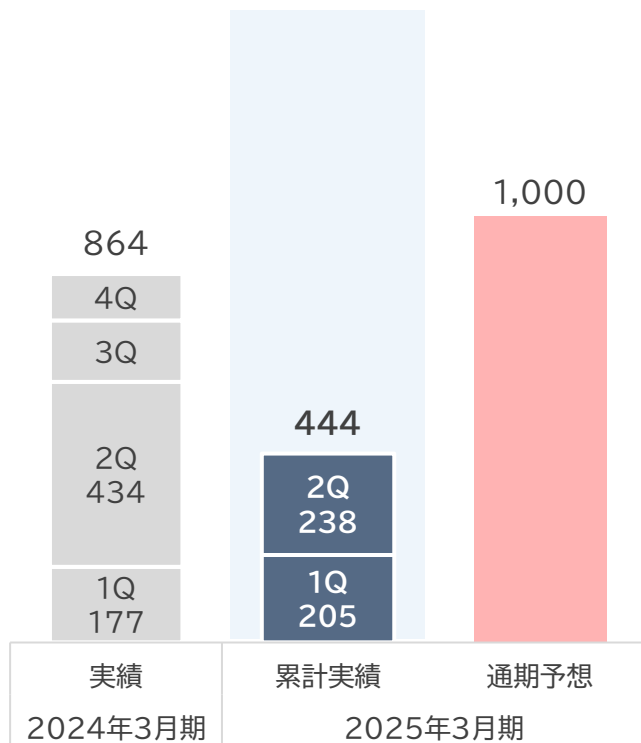
※販売数量の合計値は鶏・豚・牛を除いた販売数量も含まれております

- 有利原料の積極的活用や高利益製品の販売強化等により収益力が強化
- 販売数量は鳥インフルエンザや豚熱による影響からの回復により前年同期比+1.3% (参考)全国の畜産飼料販売数量は前年同期比+0.5% (当社調べ)

売上原価上昇に対する販売価格改定の遅れと販売数量減少によりセグメント利益は前年同期比▲27.3%

セグメント利益  
**444**百万円  
進捗率  
44%

単位:百万円



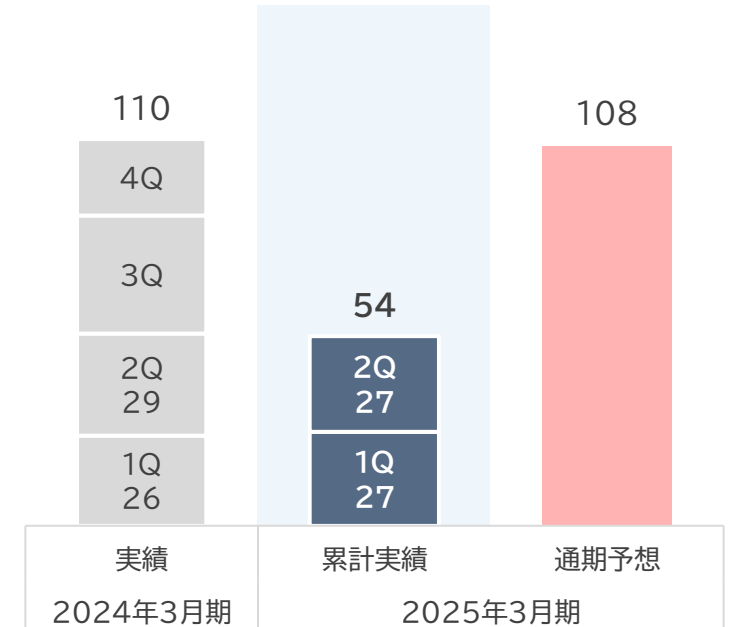
## 魚粉輸入価格

単位:円/トン



## 販売数量

単位:千トン



- 魚粉価格は前年同期比+7%となり売上原価が上昇も、販売価格改定が遅延。
- 販売数量はマダイ用で前年同期を上回るも海水温上昇等の影響を受け前年同期比▲1.3% (参考)全国の水産飼料生産数量は前年同期比▲2.0% (当社調べ)

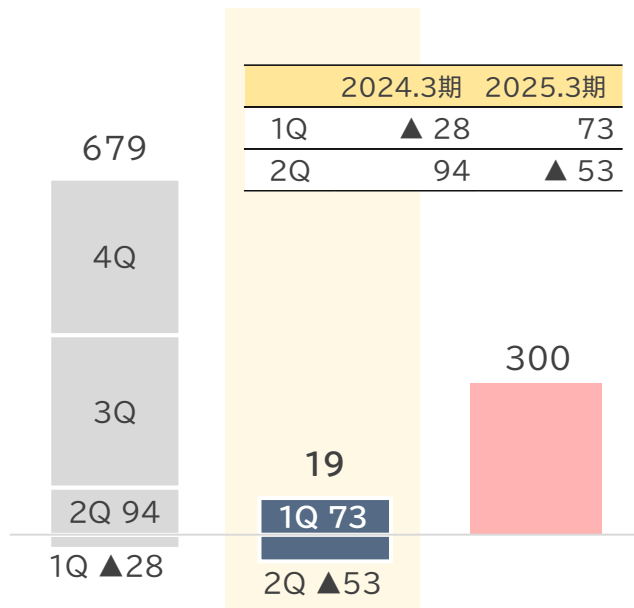
鶏卵部門の利幅減少と食肉部門の損失計上により、セグメント利益は前年同期比▲69.7%

## セグメント利益

19百万円

進捗率  
6%

単位:百万円



実績  
2024年3月期

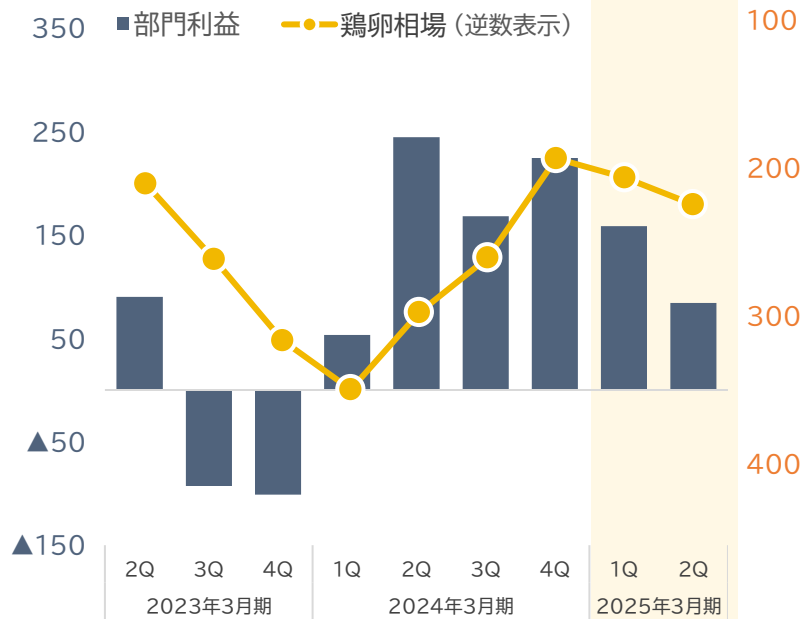
累計実績  
2025年3月期

通期予想

## 鶏卵部門:利益・鶏卵相場四半期推移

単位:百万円

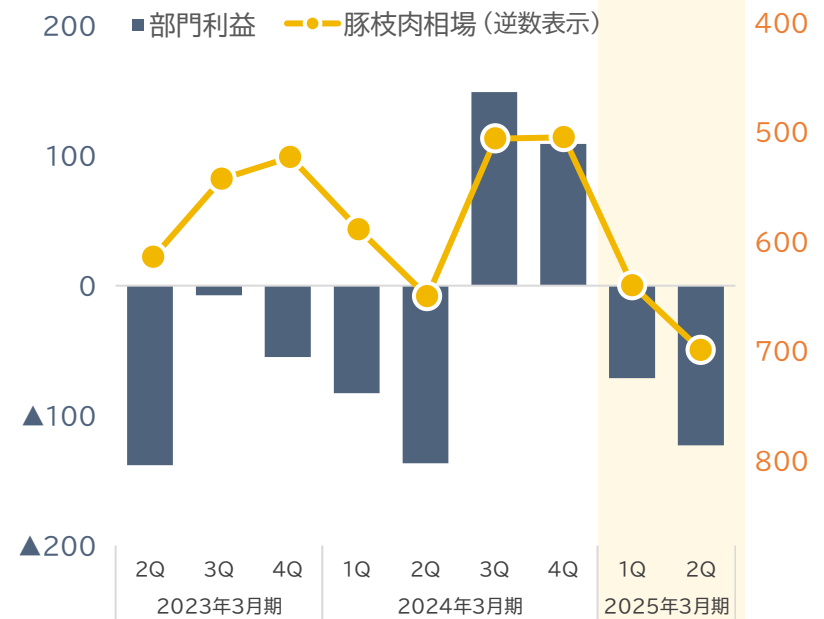
単位:円/kg・税抜



## 食肉部門:利益・豚枝肉相場四半期推移

単位:百万円

単位:円/kg・税抜



- 鶏卵:暑熱影響等による供給量不足や鶏卵相場上昇基調による仕入価格上昇から利幅が減少
- 食肉:暑熱影響等による出荷頭数減少から相場が急騰。販売価格の改定が遅れ、損失計上

# 通期業績予想

通期業績予想は変更しないが、配当方針に基づき配当予想を修正(増配)

単位:百万円

	2024.3期	2025.3期 (2024年5月10日発表)	
		増減額	前期比
売上高	313,875	307,000	▲6,875 ▲2.2%
売上原価	283,153	275,200	▲7,953 ▲2.8%
売上総利益	30,721	31,800	+1,079 +3.5%
販管費	22,972	25,700	+2,728 +11.9%
営業利益	7,748	6,100	▲1,648 ▲21.3%
経常利益	7,737	6,300	▲1,437 ▲18.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,084	4,500	▲584 ▲11.5%

配当予想(増配)	配当金			
	中間	期末	年間	配当性向
前回予想 (2024年5月10日発表)	13.5円	13.5円	27.0円	23.0%
今回予想 (2024年10月29日修正発表)	14.5円	15.0円	29.5円	25.1%

目標とする連結配当性向25%以上の方針の基、年間配当予想を1株当たり29.5円に修正するもの



本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。  
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛 (ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。

